

「何者なのか」探索中 構造エンジニア・福島佳浩

朝倉幸子◎TH-1
illustration:Taco

■ 建築

若く優秀な構造エンジニアとの出会いは心嬉しい。1987年生まれ36歳の福島佳浩さんは、じわっと光を放っている。2018年に博士課程を修了して、特任研究員を経て腰原幹雄教授のもとで現職。東京大学生産技術研究所助教で工学博士である。福島さんがものづくりに興味を覚えた底辺には、父方の祖父がものづくりが好きだったことがある。人間国宝の彫金家、増田三男が教師をしていたことがある浦和高校では、選択科目の工芸で箱をつくった体験も大きい。しかし、東京大学2年生での進学振り分け時、航空宇宙工学科か建築学科でまだ迷っていたという。建築に進むきっかけとなった音響工学の坂本研究室の体験ゼミに参加したのは、埼玉県立浦和高校時代から続いていた合唱があったから興味が湧いたのだった。

■ 構造家・佐藤淳

福島さんは、数学的には航空宇宙工学より構造設計はあまり難しくないと感じたという。そのころ、非常勤講師として、構造家の佐藤淳さんが来た。佐藤さんの構造デザインに関してのコメントが好きになって建築構造に惹かれていく。佐藤さんに自分の想いや迷いを率直に話すと「バイトに来たらいいやんか」といってくれた。建築家の石上純也さんのヴェネチア・ビエンナーレの展示作品の模型をつくったが、結果的に卒論はその構造に関する実験をまとめたものだった。

修士から博士へ進むか悩んだときにも佐藤さんに相談すると、まず実務をしてからの方が選択肢が広がるのではないかと意見をもらい、佐藤淳構造設計事務所に就職したのだった。4年半

くらは構造設計に打ち込みその後大学に戻って博士号を取得したのでした。16歳年上の佐藤さんの圧倒的なバイタリティとキラリと光る才能はどれほど福島さんに影響を与えたのが計り知れない。計算機を傍に打合せでおよその計算をする佐藤流も会得している。構造家の荒木美香さん、三原悠子さんとは事務所では出会い構造設計事務所の「Graph Studio」を立ち上げて三人で協働している。それぞれが単独で設計するときもあり、組んで受けるプロポーザルもある。

■ ジャイロイド

鋼構造を専門にする福島さんは、最近では伝統木造の改修設計に興味をもっている。木質材料の研究を行って注目を集めている腰原教授の研究室にいることや同じ東京大学で木質構造の構造、構法を研究している藤田香織教授との交流もあるからです。伝統木造の梁どうしの交差部にセル構造の一種であるジャイロイドを使う斬新な方法に取り組む。既存建物では構造の全部がコントロールできないことから、補強材としてジャイロイドを制作して使えないか。木材もセル構造の一種であるから共通のマテリアルで使えるだろうと予測している。

現在、山形で130年前の木造住宅で試験的に使っているのだとか。3Dプリンタでつくり、見せる補強材である。科研テーマはその材質を何にするか、比重は施工性を考えて木材と同じがいいだろうとか、積層造形法だと割裂破壊するとか、研究としての面白さを澁みなく語る福島さんなのです。

大学での学究生活を続ける、民間あるいはアトリエ構造家として成す、海外大学への進出と、先人の実績を見れば何通りの道が見えている。大学に在ることでのメリットは、民間として働くより確実に新しいものにアクセスできることにあると感じているとか。例えば、最新の3Dプリンタや加速度センサなど。知識と天性の頭の回転を言葉で表せる福島さんは継続して猛烈に読書をしているとか。分野を問わず興味あるものに没頭できるのも天賦の才か。

